

## 棚田保全支援体制整備事業

協働の相手(名称)	特定非営利活動法人 有田町どっとこむ		
事業年度	平成19年度 ~ 平成21年度		
県の担当部署	県土づくり本部農山漁村課むらづくり事業担当 直通電話0952-25-7124		
県の予算額	3,000千円	協働の形態	協働型委託

### 目指す姿

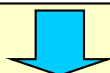
過疎化や高齢化が進行する中、棚田地域では地形的な条件等から農業者だけの棚田保全は財政的、労力的にも負担が大きく、耕作放棄地が増加しており深刻な問題となっている。  
 一方、棚田地域の活性化を目的としたさまざまなイベント(棚田ウォーク・農業体験など)が開催されており、都市住民との交流も盛んになってきたが、企画や運営など棚田地域の農家等が中心となって行っているため、継続的な活動に支障を来している。  
 このため、棚田地域外を含めた“まちぐるみ”の棚田保全支援体制整備のモデル的な取り組みを行い、棚田の維持保全を実現する。

### 事業概要

棚田の持つ多面的機能の継続的な発揮のため、これまで農家が行っていた棚田保全活動(営農・土地改良施設の維持管理など)を非農家を含めた“まちぐるみ(市町規模を想定)”で支援する新たな体制づくりを中間支援組織と行政との協働により行う。

#### 【具体的な活動】

- ・調査、現状把握、事例研究、意見交換
- ・広報啓発活動、保全活動支援
- ・保全活動支援計画作成
- ・営農支援、担い手育成支援、加工品開発支援
- ・効果検証、課題整理 等



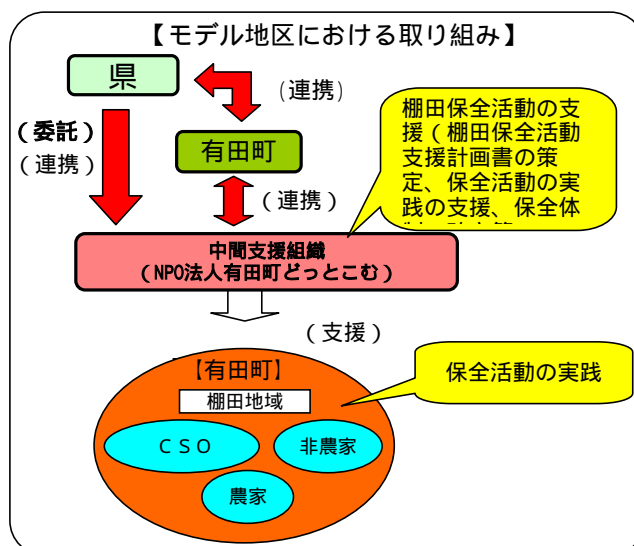
#### 【活動の成果】

- ・有田町における棚田保全活動の企画・調整・運営等を行う団体の設立

### 協働の背景

近年、農家の高齢化や担い手不足などで棚田地域における耕作放棄地が増加しており、棚田の持つ多面的機能の発揮に支障を来している。このため、地域の情勢に詳しく、多種多様なネットワークを構築している中間支援組織と協働することは、まちぐるみで支援する新たな体制づくりや地域の実情に沿った棚田保全活動への取り組みが十分可能であるため、協働型委託を実施することにした。

### 協働の内容



## 協働の成果

- ・有田町どっとこむと協働で実施したことにより、棚田地域の住民の方や農業団体等との連絡・調整がスムーズになされた。
- ・棚田地域の住民が行う保全活動の企画立案・調整・支援がスムーズに幅広くなされた。



イベントの実施



先進地現地研修(体制整備検討)



研修会の実施(棚田オーナー制度)



加工品開発・研修会(米粉パン)

## 県民のメリット

高齢化等により担い手農家が減少し、これに伴い棚田地域のコミュニティが弱体化する中で、棚田保全を行う地域活動の継続や展開が可能となった。

## 今後の展望

棚田保全活動を専門に支援する中間支援組織により”まちぐるみ”で棚田地域を支援する体制を構築していく。